

機器間連携のための測定条件の制限事項



※1)ここでは、1台目の機器を「マスター」と呼び、2台目以降を「スレーブ」と呼びます。
 ※2)複数の機器の連携動作を優先するため、各機器固有の条件設定範囲をカバーすることはできません。

- 機器間の同期測定(同時サンプリング)を行うために、ユーザーが入力した下記の入力値は、確実な同期を行うために、ソフトウェア側が強制的に変更を行います。この調整は、発生/測定レンジが固定レンジであることを前提に調整を行います。
 - <u>・ホールド時間</u>
 - 各 型式仕様の最短時間に強制的に設定されます。
 - <u>・ソースディレー</u>
 - 各 型式仕様の最短時間に強制的に設定されます。
 - ·保持時間
 - 各 機器間の同期を行うための最適な時間に自動的に調整されます。
 - その結果約40ms以上の時間に設定されます。
 - <u>・パルス幅</u>

型式の仕様に関係なく積分時間が1PLC以下の場合20ms以上のパルス幅に設定されます。 1PLC以上の場合、35ms以上のパルス幅に設定されます。

また、測定遅延時間によりパルス幅は変化します。

・パルス周期

パルス幅や測定遅延時間により、自動調整されます。

従いまして、同期測定を優先するため、上記設定項目は、機器仕様に準じた値に設定できません。

 スイープで機器間の同期測定(同時サンプリング)を確保するためには、使用する機器の出力レンジと 測定レンジは固定レンジに設定することが前提です。

下記は、測定対象となる供試体の挙動により可否が別れます。

もし、測定レンジをAUTOに変更する必要がある場合、マスター機器を測定レンジをAUTOにします。 全ての機器の測定レンジをAUTOにすると、機器間の同期(同時サンプリング)は確保できません。



複数機器の測定で、スレーブ機器のデータが、マスター機器のデータ数より1つ多い場合が発生てします。
 この場合、機器間の同期動作は正常に行われています。
 この原因は、スイープのステップ電圧が下記のように切の良い数値で無い場合に発生します。

対策は、次 ージのパラメータ測定の項を参照ください。

| D(MA) | | vce(v) | vce(mA) | CH-3(V) | CH-S(MA) | CH-4(V) | CH-4(mA) | ション・ション・しょう、「「「「「「「」」」。 ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ |
|-------|----------|---------|---------|---------|----------|---------|----------|--|
| 0.002 | 0.467533 | 0 | -0.017 | 1 | 0.0001 | 1 | 0.00001 | ステップ電圧が3桁程度で、切の良い数値に変更 |
| 0.002 | 0.613489 | 0.22222 | 0.472 | 14444 | 0 | 1444 | 9 | |
| 0.002 | 0.616395 | 0.4444 | 0.536 | 1.8888 | 0 | 1.886 | 0.00001 | しまり。 |
| 0.002 | 0.616416 | 0.66666 | 0.542 | 2.3332 | -0.0001 | 2.332 | 0 | |
| 0.002 | 0.616428 | 0.88888 | 0.547 | 2.7776 | -0.0002 | 2.776 | 0 | |
| 0.002 | 0.616429 | 1.1111 | 0.551 | 3.222 | -0.0002 | 3.22 | 0 | |
| 0.002 | 0.616426 | 1.33332 | 0.556 | 3.6664 | -0.0003 | 3.664 | 0 | |
| 0.002 | 0.616419 | 1.5555 | 0.56 | 4.1108 | -0.0003 | 4.108 | 0.00001 | |
| 0.002 | 0.616421 | 1.77776 | 0.563 | 4.5552 | -0.0004 | 4,552 | 0 | |
| 0.002 | 0.616409 | 1.99998 | 0.567 | 4.9996 | -0.0004 | 4.996 | 0 | |
| | | 2 | -0.011 | 5 | -0.0005 | 5 | 0 | |

 本ソフトでは、下記のようなトランジスタやFETの静特性のようなパラメータ測定が可能です。 パラメータモードでは、LOGスイープは出来ません。



下記のような現象が発生する場合が有ります。

スレーブ側のスイープデータ数が1つ多くなり、その末尾のデータが同期測定から外れる。 この原因は、マスター側とスレーブ側が、それぞれの機器内部で独自にステップ数を決定することにより発生 します。 マスター側とスレーブ側のスイープデータ数が同じになるような条件に変更します。



2台以上の同期運転を行う場合の、測定器裏側のBNC接続方法

注)「Excel」タブを選択して、Excelデータ出力を行う場合は、下記のBNCによる接続は不要です。





<u>2台の6240A/41A/42/47G/43/44を使用して、トランジスタのhFEを測定した例</u>



<u>8252と6240A/41A/42/47G/43/44を組み合わせて、トランジスタのhFEを測定した例</u>

8252は、測定対象により接続方法が異なります。詳しくは、8252本体の取扱説明書を参照ください。

(W32-R6244MULT2で対応)



(OPERATE IN/OUT)

注1)2台の機器での同期動作を行う場合、必ず、機器リアーの BNCコネクタ間を同軸ケーブルで結線してください。(次ページ参照) 正しい結線が行われていないと、正常な出力/測定動作が行われません。



測定結果が表示された例







機器本体でのスイープ出力と測定を行う



6240A/40B/41B/42/47Gの裏面

8252の裏面







3台以上の機器で同期配線を行う場合の注意

1台の機器のBNCコネクタに、2本のBNCケーブルを接続する必要が生じます。その場合、下記のように「T型接栓」を使用しないで 「Y型接栓」を使用します。T型接栓では、BNCケーブル同士が干渉して接続ができません。



6240A/40B/41A/42/43/44/47G の場合の同期信号のBNC接続

6253の場合は、「Y型接栓」を使用してもBNC間のケーブルが干渉するため、下記のようにBNCケーブルとT型接栓を組み合わせて、 BNCケーブルの配線を行う必要が有ります。



6253の場合の接続



本ソフトを使用する前の機器の設定

6241A/6242/6247GのGP-IB設定



①MENUキーを押して、ロータリーノブを回し、「I/F」を表示します。

②下矢印キーを押して、「GPIB」と「USB」の切換え画面で、もう一度、 下矢印キーを押して、ロータリーノブを回し「GPIB」に切換えます。

③上矢印キーを押し、ロータリーノブを回し、今度はGP-IBアドレスを設定します。

④MENUボタンで測定画面に戻ります。

8252のGP-IB設定



6243/6244のGP-IB設定



①MENUキーを押して、「c.CHECK」キー、または、「RCL」キーで、「SYSTEM」を表示します。

②「DOWN」キーを押して、GP-IBのアドレス設定画面を表示します。

③「上矢印」キー、「下矢印」キーを押し、GP-IBアドレスを設定します。

④MENUボタンで測定画面に戻ります。

①MENUキーを押して、ロータリーノブを回し、「SYSTEM」を表示します。

②下矢印キーを押して、ロータリーノブを回し「GPIB」を表示します。

③上下左右の矢印キーを押し、GP-IBアドレスを設定します。

- ④EXITボタンで測定画面に戻ります。





◆Excel上のデータを電圧/電流として1台または、2台の機器から出力しつつ、同時に測定を行います。 Excelシート上のデータを読込み、指定された時間間隔でMAX2台の機器から順次出力します。 出力と同時に、電圧値または電流値の測定を行います。また外部に取り付けたマルチメータ等による 同時測定も可能です。 測定中、測定データのリアルタイム作図が可能です。 注)このExcelトレース測定では、1台目出力から2台目出力までに約30msのタイムラグが発生します。

◆一定の電圧/電流を出力した状態で、連続的に測定だけをおこないます。

1000

指 定された電圧または電流値に固定した状態で、指定された時間間隔で電流または電圧の連続測定をを行います。 測定値の限界値を設定しておくと、 そ ま範囲を外れたとき自動的に出力をOFFにします。

◆本体のスイープ機能をフルに活用した測定ができます。

2台の機器間で同期をとり、電圧または電流のスイープを行いその測定結果をExcelシートに取込みます。必要なら自動的に作図を行います。 パルス出力もサポートしています。半導体素子などの、I-V測定の測定に使用します。

◆Excel上のデータをランダムスイープメモリ領域に取込みます。

Excelシートからランダムスイープメモリ領域に取込んだ後、2台の機器間で同期をとり、ランダムスイープを実行します。 同時に、電圧または電流の 測定も可能です。 また、ランダムデータは、他の計測器用アドイン・シリーズ(オシロスコープ等)で取り込んだデータがそのまま使用できます。 オシロスコープの波形の再生に利用できます。





【2台同期測定の場合の特記事項】

さまざまな測定条件を入力した直後は、保持時間(パルス周期)の入力欄を空欄にして測定を開始することをお勧めします。
 空欄にすることにより、ソフト側で、他の測定条件が満足できるような最適で最短の保持時間を計算し、設定します。
 保持時間(パルス周期)、測定遅延時間、ホールド時間、ソースディレーは、1台目(マスター側)に入力した値に基づいて、2台目(スレーブ側)のこれらの条件はソフト側で自動的に最適値に設定されます。

注1) 測定終了後、その測定結果を測定器内部のバッファメモリからExcel上にデータを取り込むのに必要な時間は、4000ステップのデータの場合、約21secかかります。

注2) 2台の機器での同期動作を行う場合、必ず、機器リアーのBNCコネクタ間を同軸ケーブルで結線してください。(前ページ参照) 正しい結線が行われていないと、正常な出力/測定動作が行われません。



●「スイープ」タブでパラメータ測定を行う方法



パラメータ測定の例



 本ソフトでは、下記のようなトランジスタやFETの静特性のようなパラメータ測定が可能です。 パラメータモードでは、LOGスイープは出来ません。



下記のような現象が発生する場合が有ります。

スレーブ側のスイープデータ数が1つ多くなり、その末尾のデータが同期測定から外れる。 この原因は、マスター側とスレーブ側が、それぞれの機器内部で独自にステップ数を決定することにより発生 します。マスター側とスレーブ側のスイープデータ数が同じになるような条件に変更します。



「Excel」タブを選択しリアルタイム出力での測定方法

●Excelシート上のデータをなぞりながら出力する場合

事前に出力するデータをExcelシートに入力しておきます。出力するデータは任意の位置に入力可能ですが、Excelシートの上から下方向に入力します。 下記に、その1例を示します。

2台の機器から出力動作を行う場合、どちらか1つの出力データが空欄になった時点で試験を終了します。

| | | | | | , ^{1台目の} 21 | 機台目 | 器の「出力位† 目の機器の「出 この位置にカー | 置」をここに設定し 対位置」をここに -ソルを置いて測! | います。 設定します。 定を開始します | 0 |
|------------------|-------------|---------------------|--|-----------------------|-------------------------|--------|--|------------------------------------|---------------------------|-------|
| 📧 Mi | crosof | ft Excel - R | 6244 M U | и тара | J.xls | | | | | |
| :3) | ファイル(| E) 編集(E) | 表示心 | 挿入① | 書式① | ŋ | ール(<u>T</u>) データ(<u>D</u> |) ウィンドウ(W) へ, | ルプ(<u>H</u>) R6244M | ULTV3 |
| 1 | : MS | S Pゴシック | -/11 | - B | Z U | E | | 1 🗄 🗔 + 💩 + | A - 2 : . | o tri |
| | | | / | | | | | 2/ 30 | | - |
| : 1 | | | / = | | | | | o o 2 | | |
| | NIO | • | Jx | -/- | | | | F | F | |
| 1 | A | - Б/ | | _/0 | 10 | | U | E | F | |
| 2 | | | | _/_ | | _ | | | | |
| 3 | | 出力索压-1 | (V) LH | 力雷流- | -1 (mA) | 81 | 定電流-1(A) | 測定電圧-2(V) | 外部測定(\/) | |
| 4 | | • | 1 | • | 0.5 | Γ | 0.99987 | 2.002 | -0.01508 | |
| 5 | | | 1.2 | | 1 | | 1.19991 | 4.005 | -0.0131 | |
| 6 | | | 1.4 | | 1.5 | | 1.39985 | 6.01 | -0.01 424 | |
| 7 | | | 1.6 | | 2 | | 1.59983 | 8.014 | -0.01313 | |
| 8 | | | 1.8 | | 2.5 | | 1.79991 | 1 0.01 9 | -0.01 448 | |
| 9 | | | 2 | | 3, | | 1.99984 | 12.024 | -0.01 208 | |
| 10 | | / | 2.2 | 1 | 3.5 | | 2.19978 | 1 4.026 | -0.01 292 | |
| 11 | | | 2.4 | _/ | 4. | | 2.39977 | 16.029 | -0.01239 | |
| 12 | | | 2.6 | | 4.5 | | 2.59984 | 18.031 | -0.01 358 | |
| | | | 2.8 | | 5 | | 2.79988 | 20.032 | -0.01 481 | |
| 当日の測知 Excelに入 | 定器の 、力した | 出力データ <u>-</u> 例 | 2台 動作 出力 | の機器を を行う場 ロデータる | :使用して 湯合は、こ を入力し: | こけこうます | わ に ト。 - 1 2.99983 に え | | -0.01244 Sれた例 | |

●出力を固定して、測定だけを繰り返す場合

ー定出力で、測定だけを繰り返す場合は、出力値の後ろに丸カッコで測定の繰返し回数を入力してください。出力値を入力するExcelシート上の位置は任意です。 下記の例では、1台目の機器は12.5V出力固定、2台目の機器は14.8V出力固定で50回測定を繰り返す場合の例です。

1台目の測定回数と、2台の機器の測定回数を異なった回数で入力した場合は少ないほうに設定されます。例えば、1台目は12.5V出力50回の測定回数、2台目は、0.2A 出力100回の測定回数と入力した場合、実際の測定回数は50回になります。

| 1台目の機器の「出力位置」をここに設定します。 | 2台目の機器の「出」 | 力位置」をここに | こ設定します。 | この位置にカーソルを置いて測定を閉 | 射始します。 | | | |
|--------------------------------|----------------|--------------|----------|-------------------|---------------|--|--|--|
| Microsoft Excel - R6244MULT | カタログ.xls | ゆログ.xls | | | | | | |
| :國门 ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 掲 | 入切 書式((2) ツ~ | -ル(T) データ(D) | ウィンドウ(W) | ヘルプ田 | | | | |
| | MS Pゴシック | • 11 • B | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | - Cr 🖄 - 🗉 | | | | | | | |
| M27 • fx | | | | | | | | |
| A B C | D | E | F | G | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 級過時間(coc) | mΑ | mΑ | | | | | |
| 4 12 ⁵ (50) 148(50) | 011 | 382.01 | 300.97 | | | | | |
| 5 | 0.61 | 948.57 | 979.83 | | | | | |
| 6 | 1.11 | 401.37 | 278.28 | | | | | |
| 7 | 1.61 | 160.44 | 162.82 | | | | | |
| 1台目の測定器の出力データをExcelに入力した | 例 2.11 | 646.59 | 41 0.07 | | | | | |
| 12.5V固定で、50回の測定を繰り返す場合は、 | 2.61 | 412.77 | 712.73 | | | | | |
| 12.5(50) | 3.11 | 326.21 | 633.18 | | | | | |
| と入力します。 | 3.61 | 207.56 | 186.01 | | | | | |
| 注)この入力で、Excelがエラーメッセージを出した | 4.11 | 583.36 | 80.71 | | | | | |
| 場合は、先頭にシングルクォーテーシ ンを入力 | 4.61 | 457.97 | 905.73 | | | | | |
| て、その後ろに数値を入力してください。 | 5.11 | 261.37 | /85.21 | | | | | |
| 例 | 5.61 | / 378.90 | 289.67 | | | | | |
| '12.5(50) | 0.11 | 919.38 | 631.74 | | | | | |
| 10 | | 027.04 | 428.40 | | | | | |
| 10 | 測定; | 結果が入力され | た例 1.04 | | | | | |
| 20 | 811 | 834.82 | 22.63 | | | | | |
| | 0.11 | 501.02 | 04040 | | | | | |

<u>「Excel」タブを選択した後、「START」ボタンで出力及び測定を開始します。</u>

出力する電圧または電流値を、事前に Excelシートに入力しておく必要があります。また、「出力位置」ボタンで、各機器が出力するExcelシート上のデータ位置先頭を 指定してください。上記設定をした後、「 START」ボタンをクリックすると指定位置から順次下方向にデータが出力され、その測定結果が現在のカーソル位置に入力されます。 「出力位置」ボタン参照

| Excelデータ出力モード この「Excel」タブが選択されている時に、 「START」をクリックすると、Excel上の データが2台の機器から順じ出力され、 同時に測定が行われます。 | C)19992010 SYSTEMHOUSE SUNRISE X 6244MULT2 Ver20 START PAUSE SIOP Excel BACK | - 現在の出力と測定を完了後、一時停止します。「PAUSE」を押 したまま、「START」を押すと、ステップ動作になります。 最初に「PAUSE」を押した後に「START」を押しても、ステップ 動作になります。「PAUSE」を解除すると、連続出力モードに復 帰します。「Excel」タブが選択されたときのみ、有効です。 |
|--|--|---|
| 2台の機器間での出力には、約30ms のタイムラグがあります。 | • Excel スイーナ ランダム | 画面を縮小表示に切り換えます。 |
| 出力と測定の条件を入力する機器を選択――― | • 6242(1) | 出力を中断します。 |
| します。括弧内の数値はGP-IBアドレスを 表わします。機器型式とGP-IBアドレスの 設定は、「機器の構成」ボタンで行います。 | 出力方法 出力単位 電圧制御 ○電流制御 ∨ ● ▼ | 「PAUSE」状態のとき、1つ前の測定値を削除します。 再測定を行う場合に使用します。 |
| Excel上のデータを電圧として出力するか、 電流として出力するかを設定します。 | | ~Excel上のデータを出力する時の単位を設定します。 Excel上の データが「100」で、「mV」を設定すると、100mVが出力されます。 |
| 電圧出力する時は、制限電流を入力し 電流出力する時は、制限電圧を入力し ます。空欄の場合は、機器仕様に順じ その出力値に対応した最の制限値 に自動的に設定されます。 | 型 終 7 特出力OFF エラーマスク ア パルス出力 平 サスペンド設定 潮定方法 積分時間 1PLC | > 出力するデータ先頭位置を指定します。Excel上のカーソルを 出力したい先頭位置に置いてこのボタンをクリックします。 下のテキストボックスに、カーソル位置が入力されます。 テキストボックスへは、直接、手入力も可能です。 テキストボックスが空欄の状態では「START」できません。 必ず、機器ごとに設定が必要です。 |
| 108240Exeedth70急26期16 10240Exeedth70急2時間6 2nd 制電流 -150 AA ックスをダブルクリック | 湖定透差 0.1 sec □電流測定 ■ FREE RUN | 出力動作中の停止条件を設定します。(後述④参照) |
| our すると第2制限値の入 力が可能です。 | Ⅰ 扱抗モード I AUQT RANGE ☑ スクロール □出力値も、カ | ~ 6240A/41A/42のサスペンド出力を設定します。 ②を参照 、 |
| 全データ出力を終了した時、出力をOFF | ログラフ化 ロ経過時間入力 | * 測定の積分時間を設定します。 |
| にします。 パルス出力に設定します。 | 「外部測定器使用 機器の構成 (学員) R | *電圧/電流出力後、測定までの遅延時間を入力します。保持時間より長い時間を入力した場合、この時間が保持時間となります。あまり正確ではありません。 |
| 電圧/電流の出刀保存時間を人刀します。 あまり正確ではありません。 パソコンのタイマで時間をカウントします。 | (mine #1.84- 000 - 100 | ハンコンのクイマ (*時間をカリントします。 * 測定をフリーラン状態で行います。測定 中、測定器は常に測 |

*測定をフリーラン状態で行います。測定中、測定器は常に測 定値を表示し続けます。正確な測定遅延時間が必要な場合 には「FREE RUN」は不向きです。

| C) 19992010 SYSTEMHOUSE SUNRISE X 6244MULT2 Ver20 @ START PAUSE SIOP Excel BACK | ■定要値 ■応または電圧の測定を行う時、チェックします。また測定結果をExcelへ入力する時の単位を設定 します。 また、Excelへデータを入力する時、データを反転する時、Pol.Reversalsにチェックを付けます。 抵抗モードでは、抵抗測定が可能です。R6243/44でも、抵抗測定が可能です。 |
|--|---|
| Excel スイーブ ランダム 6242(1) 出力方法 出力単位 | 測定をオートレンジで行います。マニュアルレンジでは、制限電流によって決まるレンジに固定されます。 ただし、8252の場合は、マニュアルレンジでは測定レンジを指定します。オートレンジでは、下側制限レンジを指定し、 オートレンジディレーも指定します。 |
| 制限電流 500 mA 出力位置 (保持時間 1.0 592 | 8252の、マニュアル レンジの設定画面 |
| □ / / / / / / / / / / / / / / / / / / / | 出力データが常に画面に表示されるように、Excelシートをスクロールします。 |
| ● 振花モード ▲ HOT RANGE ● スクロー◆ ● 出力値も入力 ■ 経過時間入力 ■ 外部測定器使再 | 測定データのリアルタイム作図を行います。①を参照 |
| 模石の構成。 を Marker | 一 |
| | ・ 使用する機器台数、型式、GP-IBアドレス等を設定します。③を参照 |

①グラフの作図方法の設定

| Excel出力の作図条件 | 「Excel」タブを選択し、データ出力を行う場合のリアルタイム作図の方法を設定します。 |
|---|---|
| Excelデータ出力のリアルタイム作図 | |
| グラフのタイトル I-V特性 OK | グラフのタイトルを任意に入力します。空欄でもかまいません。 |
| 横軸データ設定 横軸データ設定 機器1:発生値 ● | ――― 横軸のデータを指示します。 |
| MAX • · | 横軸目盛のMAX/MINを入力します。空欄の場合、オートスケーリングされます。ただし、事前に値を入力し、固定スケールにすると、 作図が高速に行われます。 |
| | ――― 縦軸のデータを指示します。 |
| 株台: 湖定 18 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 縦軸目盛のMAX/MINを入力します。空欄の場合、オートスケーリングされます。ただし、事前に値を入力し、固定スケールにすると、 作図が高速に行われます。 |

②サスペンド電圧の設定

6240A/41A/42だけの機能です。 「終了時出力OFF」にチェックを付けた場合、機器のオペレーションをOFFにしないで、オペレーションをONのままで、サスペンドにします。 ここでは、サスペンドの時の出力電圧を入力します。サスペンドは、常にHiZです。

③機器の構成の設定

場合にチェックします。

④エラーマスクの設定(試験停止条件)

| エラーマスク設定 | 出力動作中、6240A/41A/42//47G/43/44本体のエラーチェック項目を設定します。 |
|---|---|
| Excelシート出力時のエラーマスク マオーバロードを検出する。 マ発振を検出する。 マ 逆極ソースを検出する。 「リミッタを検出する。 「オペレートOFFを検出する。 | Excel上のデータを出力中に、チェックを付けた項目のエラーを検出した時、出力動作を停止します。 通常は、図に示す状態で使用します。 注)「オペレートOFFを検出する」にチェックを付けた場合 測定器リアーのBNC入力「INTER LOCK」をシート状態で測定を開始する必要があります。シートされていないと、 オペレートがONにならないため、測定が開始できません。測定 中にINTER LOCK入力がオープンになると、直ちに、 測定器はオペレートがOFFになります。ソフト上は、出力値変更時と測定実行時にINTER-LOCKがチェックされます。 ただし、保持時間が10sec以上の場合は、保持時間中、0.5sec毎にINTER LOCKがチェックされます。 |
| 测定值の停止条件 下傳服界值 上傳限界值 ● mA ● mA | 出力動作中、測定データがここで設定した値を外れると、測定を停止します。どちらか、または両方に限界値を 入力してください。判定を行わない場合は、両方を空欄にしてください。また、測定を行わないと、ここでの入力 値に対する判定は行われません。2台の機器を使用して出力動作中に、どちらか1台の機器が限界値を外れ た場合、限界値を外れた機器だけが出力動作を停止し、他の機器の出力動作は継続されます。 |

5外部測定器<u>(マルチメータ等)</u>の設定方法

外部測定器とはGP-IBでパソコンと接続されている必要があります。(下図)

外部測定器から送られてくるデータのフォーマットは、ASCIIであり、複数のデータの場合(Max10個)、データ間はコンマで区切られている必要があります。

注)全ての測定器との通信を保証するものではありません。

「ランダム」タブで、Excelデータをランダムメモリに取込、出力と測定を行う方法

ランダム波形でスイープした例

A/D変換器には、「逐次比較型」と「積分型」があり、本ソフトがサポートする電圧電流発生器は、「積分型」を 使用して測定が行われます。

①積分型A/D変換器

<u>分時間「PLC」とは</u>

変換速度は遅い。

ノイズの影響を受けにくいため安定した測定が可能。 デジタルマルチメータ、抵抗計、微小電圧電流計など に使用される。

【構造】 コンデンサに充電して、放電する時間を計る

②逐次比較型A/D変換器

変換速度が速いため、瞬時の電圧測定が可能。 電圧の瞬時値を測定することが目的。 オシロスコープや、A/D変換ボードなどに使用される。

【構造】 内部D/A変換器との比較により測定する。

積分型A/D変換器の積分時間は、'PLC'の単位を使用します。 Power Line Cycle(商用周波数)の略語です。 この時間は、A/D変換器内部のコンデンサを充電する時間です。 1PLCは、商用周波数の1周期分の時間です。 50Hz地域では、20ms、60Hz地域では、16.7msを表します。

測定精度に影響を及ぼすノイズ要因の殆どは、商用周波数の整数倍の周波数の外来電圧です。 PLCの整数倍の積分を行うことによりノイズ要因の多くを除去できます。

